

令和 8 年度 大阪市 英語教育改善プラン

目標

小中学校 9 年間を見通した英語教育の取組を推進し、英語 4 技能を総合的に養うことにより、児童生徒の豊かな語学力・コミュニケーション能力等を育成する。

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

- ① 児童の英語力の向上
大阪市小学校学力経年調査において、英語の平均正答率の対全国比が向上

	R6 5年生	R7 6年生
大阪市	84.0%	86.0%
全国(参考)	81.4%	81.1%
対全国比	1.03	1.06

〈参考〉R7大阪市小学校学力経年調査結果

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000673/673634/keinen-r7.pdf>



- ② 児童の授業理解度の向上
大阪市小学校学力経年調査（英語）児童質問紙「外国語の授業の内容はよくわかりますか」に肯定的回答をした児童の割合
(R6 5年生76.6%⇒R7 6年生:77.3%)

- ① 言語活動を行う際、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識できている教員が限定的である。

2. 要因分析

- ① 正答率80%以上の上位層の児童の割合が増加
 ・全小学校 1～6年生において、「小学校低学年からの英語教育」（英語モジュール学習/本市独自）の継続した取組
 ・全校へのALTの配置
 ・巡回訪問研修等による教員の指導力向上
 これらの総合的な取組により、児童の英語力向上につながっていると考えられる。

- ② 本市独自の外国語指導巡回訪問や専科加配教員研修等により、教員の授業改善が進んでいると考えられる。

- ① 言語活動は行っているものの、語彙・表現・文構造等の知識・技能中心の指導になりがちで、外国語でコミュニケーションを図る必然性が弱い。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ① 全小学校で、英語モジュール学習の実施
 ・週複数回かつ週あたり計20分以上
 例：週2回各10分/週4回各5分 等
- ② 教員の資質向上にかかる施策
 ・英語授業力向上推進チーム（本市独自）の指導教諭等が、各小学校を巡回訪問し、研修や指導助言等を通して、教員の授業改善を推進
 ・外国語活動、外国語授業のための指導計画、指導資料、教材等を作成
 ・指導者対象英語力向上研修の実施
 夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設

〈参考〉大阪市教育振興基本計画 p.49

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000675/675819/R8keikaku.pdf>



- ① 上記、巡回訪問を活用して、効果的な言語活動について研修を行う。

一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組

一定の英語資格を有する受験者には、申請によりテストの合計得点に加点（英検、GTEC(CBT)、IELTS、TOEFL (iBT)、TOEIC(LR)）

令和 8 年度 大阪市 英語教育改善プラン

小中学校 9 年間を見通した英語教育の取組を推進し、英語 4 技能を総合的に養うことにより、児童生徒の豊かな語学力・コミュニケーション能力等を育成する。

目標

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：60.3%⇒R8：60.5%）

☐ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

1. 目標に対する現状

- ① CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が昨年度と比べて2.8ポイント上昇
(R6：57.5%⇒R7：60.3%)

〈参考〉R7大阪市英語力調査結果
<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000573/573383/R7.pdf>



- ② R6全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果から、特に「1、2年生のときに受けた授業で、（即興で）自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動が行われていた」と肯定的な回答をした生徒の割合が増加
(R5:58.6%⇒R6:70.1%)

- ① 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が低迷
(R7本市独自調査結果：65.4%)
※R5英語教育実施状況調査全国平均値:75.1%
- ② CEFR B2レベル以上を取得している教師の割合が4ポイント低下
(R6:39.9%⇒R7: 35.9%)

2. 要因分析

- ① 中、上位層の生徒の割合が増加
 ・小学校低学年からの英語モジュール学習
 ・全校へのALTの配置
 ・中学校英語科教員対象の授業改善プログラム等
 これらの総合的な取組により、教員の授業改善及び生徒の学習改善が進んだと考えられる。

- ② 令和3年度から実施している授業改善プログラムにより、教員の授業改善が進み、特に「話すこと[やり取り]」の指導が改善されたと考えられる。

- ① 学校および教員間格差が見られ、言語活動の量・質が上がりにくい。
- ② 教師の英語力向上のための計画的な学習や受験に充てる時間を確保しづらい。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①② 大阪市英語力調査（4技能型外部テスト）を活用した授業改善プログラムにより指導のPDCAサイクルを構築
- 事前研修 事後研修
- 授業実践 英語力調査
-

〈参考〉
 大阪市教育振興基本計画 p.49
<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/cmsfiles/contents/0000675/675819/R8keikaku.pdf>



大阪市教育振興基本計画の情報誌第5号、第10号



<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000623771.html#johoushi>

- ① 効果的な言語活動をテーマとした研修の実施や指導法に係る情報・教材をポータルサイト等に掲載（英語指導ハンドブック等）
- ② 指導者対象英語力向上研修の実施
 夏季休業中に、専門的な知見を持つ語学学校等と連携した集中講座を開設

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

大阪市教育委員会

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (%)	55.9	54.3	55.9	57.5	58.3	60.3	60.5		61.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合 (%)	75.0	57.3	62.3		67.3		72.3		77.5		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合 (%)	90.1	59.6	87.0		91.3		95.6		100.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表 (%)	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握 (%)	100.0	70.3	77.7		85.1		92.5		100.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合 (%)	50.0	37.8	40.8	39.9	43.8	35.9	46.8		50.0		
⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合 (%)	75.0	34.1	43.9		53.7		63.5		73.3			

		2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定 (%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		公表 (%)	100.0	100.0		100.0		100.0		100.0	
		達成状況の把握 (%)	100.0	71.6	78.7		85.8		92.9		100.0